

3り光

No.103 2008.9.

発行 真言宗豊山派
北田山 宝泉寺
所沢市北岩岡 130
編集 色 摩 真 琴

テレビ放送
宝泉寺施餓鬼会

声 明 と は ?

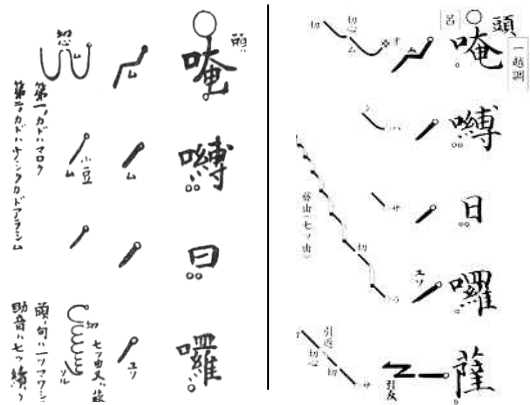
しょうみょう

皆さんは、もうご覧になったでしょうか。今月の上旬からケーブルテレビやテレビ埼玉等でここ宝泉寺の施餓鬼会の様子が放送されています。といっても残念ながら宝泉寺が主役だったわけではなく、番組の目的は、所沢市三ヶ島にある宝玉院のご住職で、かつ真言宗豊山派の声明の教師でもある新井弘順先生と、先生を中心として豊山声明を伝統芸能という観点から掘り下げることでした。宝泉寺はその一舞台となったわけです。僭越ながらわたくしも名前つきでインタビューなんかが出ちゃったりして今も変な汗が止まらない状態でございます。

ここまで読んで、声明とは、はて何だろうと思われた方もいらっしゃるでしょう。声明は日本の伝統的な仏教聖歌で、仏教とともにインドから中国へ伝えられ、中国で新たに作られたものも加わり日本へと伝えられました（豊山派HPより）。歌詞は様々なお経から抜粋したもので、いわゆる真言と呼ばれるもので、今私たちが唱えている声明は9世紀の初めに弘法大師空海上人が伝えてくださったもので

す。楽譜をみてもらえばわかると思うのですが、ただ単にお経を唱えるよりもかなり難しいです。という何が書いてあるのか初めはさっぱりわかりませんでした。ですので、私たちは先生について声明の練習を行い、また日々のおつとめでそれらを唱えています。

番組の趣旨にもあったとおり、声明は伝統芸能としての側面も持っています。多くの伝統芸能がそうであるように声明も師匠から弟子に直接受け継がれるものでしたが、最近は少し様子が変わってきました。下の楽譜、左側は



私たちの常用経典でもある「二箇法要」という経本に出てくるもので、昭和3年に発行されました。右側は新井先生を中心に一昨年に編纂発行された「豊山声明大成」という書物の中で使われているものです。「二箇」の難しさに比べ「大成」のものは、少し声明を学んだことがある

者なら、初めて見る曲でもすんなり入り込める楽譜の作りになっています。さらに「大成」には先生の独唱が録音されたCDも付いています。つまり師匠がそばにいらなくても、個人個人で研鑽に励むことができるわけです。とはいえ、やはり声明の基本は先生から直接指導を受けること。来月からは、番組の主役である新井先生の指導のもと、宝泉寺や近隣のお寺を会場に毎月一回の声明研修会が企画されています。お檀家の皆さんが、スツと仏教の世界に溶け込めるような、そんな声明が唱えられるよう一生懸命練習に励みますのでご法事の際などは、しっかり聞き耳を立ててください！

今後の放送予定

9月23日(火) 午後2時半

テレビ埼玉

他にインターネットでも見られます。

「ヨミウリオンライン」

<http://www.yomiuri.co.jp/>

20年 るりの会

8月後半の秋雨を感じさせるような長雨から一転、まさしく「残暑」という言葉がぴったりの9月5,6日に、ここ宝泉寺でおとまり会が開かれました。宝泉寺の周りに住む小学生を対象としているこのおとまり会、意外と歴史は古く20数年来の恒例行事です。

そうそう、去年は台風の影響で一泊の「おとまり会」の予定を半日の「お楽しみ会」に変更せざるをおえなかったんです。そのせいか8月に入って近所のお母さん方とお会いすると必ず「今年はお

とまり会ありますよね??」と尋ねられたのがとても印象的でした。みんな楽しみにしていてくれたんですね。去年はおとまり会中止の知らせを聞いて、泣き出してしまった子もいたとか。

さて、今年のおとまり会はどんな様子だったかということ、参加者は例年より若干少なめの35名でした。とはいえ、元気の良さや自由奔放ぶりはここ数年で一番だったかもしれません。本堂でのおつとめから始まり、流しそうめん、肝試し、ビンゴ大会という恒例の催しに加え、今回は、彼らの通う小学校の花火大会が同じ日にあつたため、かなりギリギリのスケジュールだったのですが、子どもたちのテンションは、遊び疲れて電池が切れたように寝入ってしまうまで、まったく下がることはありませんでした。夜の10時に大縄飛び(!)をしている子どもたちというのも初めてみる光景でした。



中にはあっという間に寝入ってしまう子ども

朝、朝ご飯のホットドッグをみんなで作って、最後に本堂でおつとめをして、眠い目をこすりながらも元気に帰宅していく子どもたちを見送りながら私たちは

もうぐったり。それでも後かたづけをしながら、口々に本当に楽しい一日半だったねと、子どもたち以上にこの初秋のイベントを謳歌してしまった大人たちなのでした。

この、おとまり会（正式名称をるりの会といいます）は前述のとおり、20数年前に住職が、お寺に泊まってみたいという子どもたちの声を受け、始めたものです。実は宝泉寺が属する真言宗豊山派としても、お寺に生まれ育った子ども向けではありませんが、本山である奈良県の長谷寺で毎年、青少年研修を行っています。そして、ここ宝泉寺のような末寺に対してもそれに類するものの開催を奨励しています。いつだったか知り合いに「お寺に泊まるってことは宗教教育にあたるんじゃないか」とほんの少し非難めいた口調で問いかけられたことがあります。そりゃ、お寺に来るのですから、その主人である本尊様に手を合わせ、簡単なお経を読ませるぐらいはします。しかし、その目的は決して宗教教育ではありません。そこにあるのは、ただ子どもたちに普段接することのない空間で楽しんで欲しいという気持ちだけです。お寺は宗教施設であるとともに、地域の公共施設でもあります。住職はそのことを誰よりも理解しているからこそるりの会を発足させ、地域の共同体の一部として今までやってきたのでしょう。

仏教はあまり細かいことを口うるさく言いません。最終的にみんなが仲良く楽しく暮らすことも目標の一つです。だが

らこの宝泉寺も、その役割の一部でも担うことができれば本当に嬉しいなと思うのです。これらの趣旨を徹底しながら、さあ来年も楽しむぞ（大人も一緒に）！

ご父兄にるりの会について一文を寄せていただきました

北田地区育成会支部長
中島 智美

「すごい楽しかったよ！」9月6日の朝、子どもたちは元気に家に帰ってきました。宝泉寺で行われた「るりの会」（おとまり会）に参加させていただきました。

毎年夏休みの終わる前3日間、宝泉寺の境内をお借りして、ラジオ体操をさせていただいています。地区の子どもたち40~50人が朝早くから元気に集ってきます。数年前からラジオ体操終了後、お経を読ませてもらえるという貴重な場を提供していただいております。普段イスでの生活が多く、長時間正座をすることのない子どもたちが、一生懸命手元にあるお経の本を読み、静かに集中している姿はなんといえない雰囲気です。

今では仏壇がある家も少なく、子どもたちはここで「先祖を敬うことの大切さ」という貴重な体験をさせていただいております。それだけではなく、おとまり会まで主催していただき、子どもたちは毎年このおとまり会をとっても楽しみにしています。なにしろ肝試しは本物のお墓で行うという、驚くようなイベントがあります。今年は小学校の花火大会と重なってしまいましたが、小学校までの送迎までしていただきました。地区の子どもたちの育成に大きく関わっていただき、育

成会(子ども会)としても本当に心強く、このような体験が子どもの心の成長に多くの良い影響を与えていただいていると感謝の気持ちでいっぱいです。

多くの子どもたちを受け入れる準備は大変なご負担だと思います。これからもご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。子どもたちの心に残る貴重な体験を本当にありがとうございました。

得度式とくどしき

お坊さんの世界に入ることを出家得度といい、そのための儀式を得度式といいます。出家とは家を出て、すなわち親子兄弟の縁を絶ち僧侶集団に入ることをしていました。しかし今の世ではなかなかそうはいかないのが実情です。

先日得度式に出席する機会がありました。出家得度の決心をした本人は、お導師様からはじめての戒律を授かりました。堂内には諸役のお寺様、親兄弟はもちろん、親戚や檀徒代表の総代様ほかの関係者一同からの温かいまなざしが満ちていました。本人はこのような場面をしっかりと心に刻み込んだことでしょう。

式のあいだ50年前の自分の時のことを思い起こし、そして自分の今後にも思いを凝らしていました。実は小僧の得度式は小学4年の春。その儀式について父からは寝物語に意味合いや俗名を僧名に改名することなどを聞かされたことをよく覚えています。人生の大きなポイントであったことは間違いありません。だれしも長い人生にはいくつものそのような転換点があり、人生の振り返りや先を見

通す機会になり、また豊かな彩りとしても意義深いものです。

ところでこのところ結婚式のない婚姻が増えているそうです。しかし儀式をつうじた神仏への誓いや関係の方からから祝福をいただくことで二人の決意、自覚がより固まっていく過程としておろそかにはできないと思います。

葬儀にも同じことがいえます。それは第一義的には故人の菩提のためにですが、ご遺族にとっては深い悲しみや嘆きを乗り越えるスタートとなります。一方参列の方々には故人の生き方や人となりを我が身に投影させ、奮起あるいは自制するなどの機会になります。帰りの途上「あんな風に生きたいね」「若いのにかわいそう」こんな会話の経験はありませんか。このような思いが自分の生活に反映されるというわけです。(琴)

NPO 法人
颯の扉バザー
9月23日 10時~4時
宝泉寺境内

編集後記

横書きになって3号目となりましたが、まだ紙面構成に迷いが、これでも読みやすく思っているのです・・・。

我が目でいつも見つめている本堂や境内も映像をとおすとまた趣がちがってかんじます。あのカメラ、超高価らしいのですが今もビデオテープ使っているとのこと。「デジタルはまだ安心できない」だそうです。

世界的な経済の混乱ニュースの中でイチロー選手の大リーグタイ記録が光りました。世紀をまたいで比べる記録があることも感心、お寺の歴史もしっかり残さなければと思うことしきりです。

19.Sep.2008(琴)